

日本リ・ファッション協会

古着からとった布を縫い合わせ、湯たんぽカバーに



日本リ・ファッション協会（東京都中野区）では、古着をリメイクして湯たんぽを製作している。

古着リメイクで 被災地に湯たんぽ

トレーナーや毛布などを縫い合わせて袋状にしたもので、その中に60～80度のお湯を入れたペットボトルを入れておくと朝まで暖かさが持続する。

12時間かけて、ボランティアスタッフが50人で100個を製作した。今月中に追加で200個つくる予定だと言う。

古着を「支援になれば」と提供してくれる人は多いが、それをサイズや性別がぴったりな人と現地でマッチさせるのは難しい。しかし、ひと手間かけるだけで役立つグッズに変わる。

「春になっても東北の夜はまだ寒い。6月に入るとまた梅雨で底冷えがするようになります」（鈴木純子代表）